

2006年、ユニセフ60周年

(国連児童基金)



世界の子どもの命と権利を守り、2015年までの約束を果たす

ユニセフの設立

2006年はユニセフ設立60周年の年です。ユニセフは、1946年12月、第二次世界大戦の被害を受けた子どもたちを救うために、第1回国連総会において設立され、ヨーロッパを中心にきびしい状況にあった子どもの支援を行いました。日本も1949年から1963年まで約15年間、当時の金額にして65億円もの大きな支援をユニセフから受けました。

活動の拡大、子どもの権利条約、そして現在

ユニセフはその後、さまざまな成果をあげながら、活動を拡大しました。1960年代、独立を果たしたアフリカやアジアの国ぐにで貧困に苦しむ子どもを守るための幅広い活動に取り組み始めました。

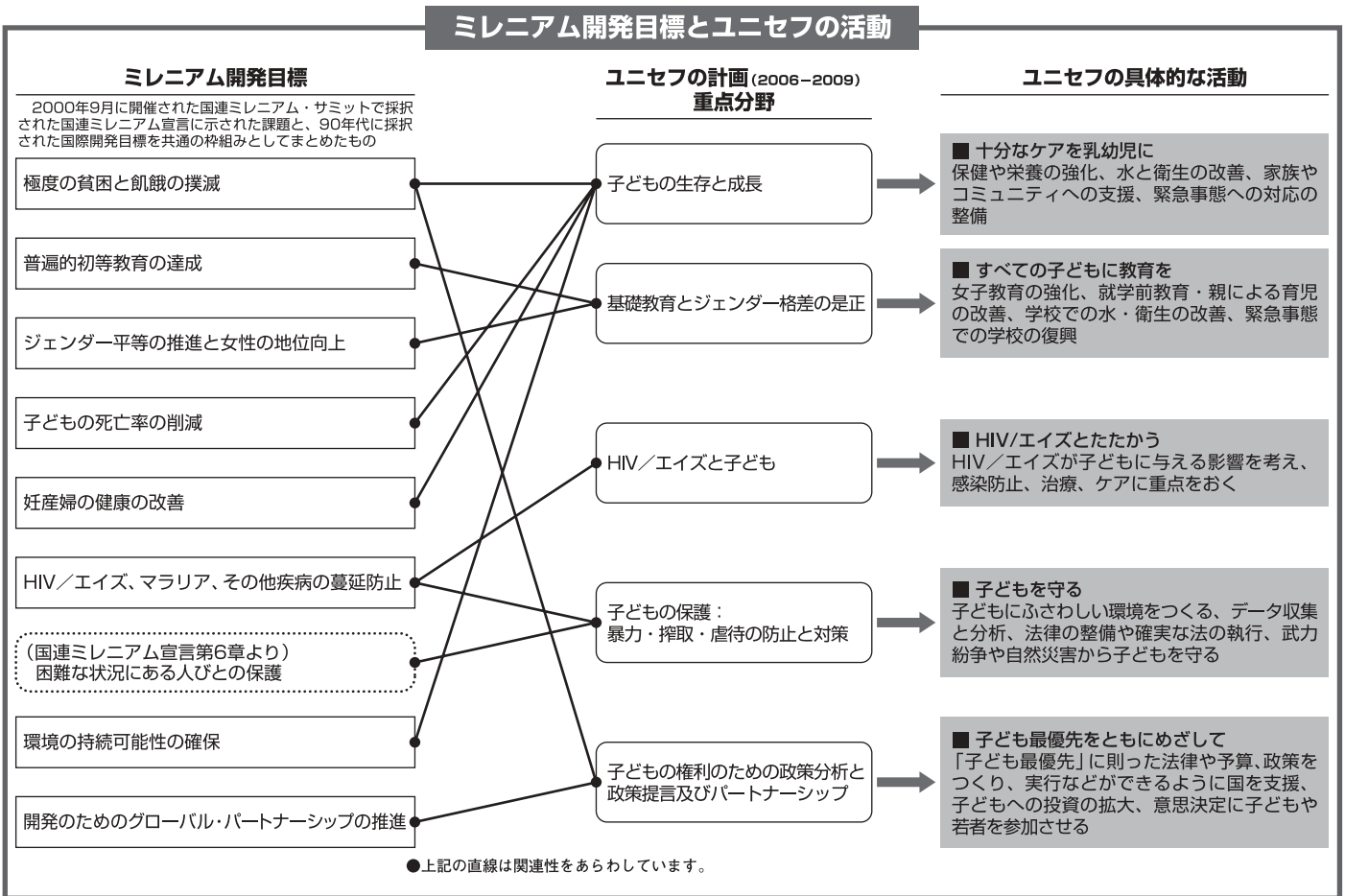
1989年、国連総会で採択された「児童の権利に関する条約(子どもの権利条約)」は今、ユニセフの活動の規範となっています。

2006年4月現在、ユニセフは世界155の国と地域で活動し、貧困、病気、紛争、緊急事態などできびしい状況にある子どもたちに支援を行うと同時に、政府へのアドボカシー(政策提言)まで行う子どものための国連機関へと発展しました。

60周年のユニセフの目標

ユニセフはより効率的で成果の上がる活動を行うために、国連や他の組織と協力し、分担を決めて活動を行うようになってきています。

60周年のユニセフの目標は、「ミレニアム開発目標」を達成することです。(下記の表を参照) 子どもの命を守り、保護するユニセフの基本的な活動や、開発途上国の人びとの「自立」を支援する方針は変わっていませんが、時代に即したHIV/エイズ対策やアドボカシーなどの新しい要素を重点分野として加えています。



ユニセフ60周年の内容について、くわしく知りたい方は次の資料をご覧ください

- 日本ユニセフ協会ホームページ http://www.unicef.or.jp/about_unicef/about_mill.html
- ユニセフ・ニュース208号(余部には限りがあります)